人新世

「それ以外の世界」と生活世界を分断する近代的世界観

エコロジー

- 分断の思考の枠組みと態度を緩っていくこと。遊ぶように生きる。

資本主義の問題

- 「環境」経済成長の罠、いずれ破綻。
- 「構造と倫理」教育・空間・時間的転嫁
- 「労働」労働の目的が資本主義の維持に。

ノンモダニズム

- 近代という前提を放棄して世界を捉える。

成熟さ

- 差異によらない存在の確かさ
- つながりによって連続的に生まれてくる存在の確かさ

リズム

- 実体的なものとなることを回避する人間性の条件
- 休息のあいだに書こうとした音楽を持続させる強度を保持し、新しい命令としての繰り返し、生命や創造性を内包する
- 間合いのリズム＝固定化しない距離の作法。
- コンテクストの忘却に対し踏みとどまる。

人新世の世界を生きる

矛盾を生きる。脆さを受け入れる。

- 快適性が必ずしも最善とは限らない。息苦しさ。

感性を開き解像度を高める（リアリティ）

- 脆さを受け入れる。
- 数学者が生活の変化を楽しむように
- 空の山をただの絵にしないために。
  ↳ 停まっていた時間を、第幾をずらしてつなぎ合わせることで再び動き出させる ○○スイッチ
- 休停と逸脱のシーソーゲーム。求心的な全体性から逃れる自由な可能性

越境者、自在なものになる

- 物語を書き変える⇒物語を自在に操り いろいろな物語を行き来する
- 転回につながる変化を回転させるように駆動させていく
- 自分が何に依存して生きているか。
- 距離においてとどまる。
- 自分がどのように関与可能かを考える

今、ここにあるもので資本主義のストーリーからずれたところで生きていく

- ラディカルな洗練さ…生活を自分の手元に取り戻す。
- 技術と想像力…コモンを補強する未来のビジョンを描く
- 資本主義から逃避する

目指す態度

エコロジカルな言葉と思考をもとに 遊ぶように建築をつくる

人新世の世界を生きるための建築（目指す建築）

- 消費エネルギーを抑えつつ、世界とのつながりを紡ぐ建築
- コストを抑えつつ、つくることを内包しているような新しいスタンダードとしての建築
- くらむこと身体を構築の意志とみなせるような形式を追求する

感性を開き解像度を高める建築

- 触覚に向かう建築
- この世界は生きるに足るものだと感じられる建築
- 差異ではなく、その物、その場所そのものの在存のあり方の個にある建築
- 失った、知覚することのよろこびや、場所に対する信頼感を取り戻す建築
- 何かを捨てることを、前向きで輝きとして取り組むようなものへ変換するメッセージとなるような建築

距離においてとどまり、越境者となる自在な建築

- 固着化を作動させない建築
- ポストモダニズムの作法からノンモダニズムの作法へ。「すべてはデザイン」から「すべてはアクター」へ
- 全てを設計・管理してしまわない建築。
  ・新しい状況が生まれるような余白をバラバラと分散化させる。
- コンテクストの忘却に対し踏みとどまり、コンテクストの変容を待てる建築
- 関与可能な建築
- 近代化によって事物から失われたリアリティを再発見する建築
  ・Form Giver から Things Follower へ
  ・生成の原理による結晶化

その他

- 良いものをつくるための新しいシステムを始動させる
- 時間軸を含めた豊かな世界をニュートン的絶対空間パラダイムの認識から切り出してみる
- 新しい手段を使って新しい世界を探る

アンビエント詩学（距離において とどまる 建築手法）

- 流出［結果］…感覚を伝える直接性、実学的な欲求を一時休止するように促し、その距離を石やく
- 中間的なもの［効果］…交話的。知覚されコミュニケーションが起こる次元。美的な目的である知覚の過程を長引かせる。
- 音質［効果］…記号でなく物として発せられる音、極めて中間的、環境的で、媒質を前景化する。
- 風音［効果］…はっきりとした源がなく、主体無しで絶えず過程 感覚を集着させる。共感的。多数じゃと導く。不安感
- トン［思弁］…緊張と緩和、振動の質感、「響回路」をものようなものとして説明する。量・振幅・音高と停止。
- 再帰印［装置］…背景と前景、空間と場所を分離する割り目を産出する。量子論的な一回限りの賭け

関係をはぐくり続け回帰を迎え結びる振動、リズム

- 振動と減速
- 並置…やるしと放置、美的な次元を開いたままにしておく。
- キッチュとぬるぬるしたもの
- 急激じと ゆっくりとしたアウラの関数

間合いのリズム（固定化しない距離の作法）

- 自己と環境との関わりを流体の中の渦とかつプリングとして捉える
- 音楽を持続させる。
- 「見の見」「後の先」…自ら変化した環境の中ではじめて感じであれるという受身。
- 建築の中の間合い（間合いは互いに変化し、合わせる能力を持った者同士にしか生まれない）
  - 変化の記憶を内包した出会いの作法
  - つくることをつくる人を届ける
- 世界を流体、渦として捉える
  - オノマトペ
  - 小さな欠印の群れ＋ネットワーク理論
  - ハイパーサイクルと成熟

ノンモダニズムの作法（近代という前提を放棄して世界を捉える）

設計

- 結びの文脈…環境を制御するのではなく、アクターとの相互作用の中で、互いに変化していく（劇羽説）様様とする。
- ハイパーサイクル…自らアクターとなり、関係性の中に入り出ぬ で、異種混交的なネットワークを組み直す。

建築

- ネットワーク理論…つなぎ交え、効率、成長、優先的選択、現元や場所に頼らない。ノンモダニズムを空間の質の探求
- 全体に従ってきたもの…近代なるう枠組みからこぼれ落ちたあいまいなもの（プラズマ）を関係性の中に関放する

すべてはアクター…不確実性や受動性を受け入れ、アクターとして世界に内在したままサイクルをまわし、アクターに新たな光を与える関係性を探りながら新しい空間の質を追い求める

背景とキーワード

何のための2拠点か

- 越境者になり、2つの世界の間の矛盾を生きる
- 感性を開き解像度を高める
- 今、ここにあるもので資本主義の成長のストーリーからずれたところで生きていく

⇩

新しい身体性・知覚の獲得 もしくは 以前持っていた感性の再獲得

⇩

異なる環世界の発見

↳ 新しい理論へ

- これまでの思考の枠組みを緩うこと。
- 生活の変化を楽しむこと
- 自分が何に依存して生きているかを考えること。
- いろいろな物語を混ぜ合わせること。
- 感性が開かれたままになるように動き続けること。固着しないこと。
- 解像度を高め、つなぎ合わせるスイッチを探すこと

- 生活を自分の手元に取り戻し、洗練さを獲得すること
- 技術と想像力を駆使して、コモンを補強する未来のビジョンを描くこと
- 持続する強度のあるリズムを生み出すこと。
- コンテクストを忘却しないように考え続けること。

⇩

エコロジカルな言葉と思考を手に入れ 遊ぶように生きていくこと

二拠点居住

2022年まとめ

2023 1.4